

7 令和2年度 事業のまとめ

横浜市立図書館では、『横浜市立図書館運営実行プラン（以下、「運営実行プラン」）』の進行管理のため、「図書館の目標」を策定し、年度ごとに振り返りを行うことで進捗状況を確認しています。目標や振り返りは、ホームページで公開しています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた取組の変更・中止などがありました。新しい生活様式を取り入れつつ柔軟に取り組みました。

重点項目1 誰もが利用しやすい図書館づくり

(1) 図書館のイメージアップと利用促進のための企画・イベント等実施

・イベント等の実施

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度は4月から6月まで、イベントを中止しました。

7月以降、感染防止対策を取りながら、各区の読書活動推進目標に基づき、各館で区と共催した読書講演会（P. 29-P. 33）や周年事業（金沢図書館（40周年）、港北図書館（40周年）、緑図書館（25周年）、都筑図書館（25周年））（P. 34 表（4）及びP. 4）に取り組みました。

神奈川区民文化センターかなっくホールと連携し、図書館を会場とした芸術文化の体験ができる「テアトル図書館」を開催しました。閲覧フロアを舞台にして上演した館もありました。（9館、延べ211人）

【区と共催した読書講演会等の例】



戸塚図書館「戸塚区読書活動ステップアップ講座
ようこそ紙芝居の世界へ～野坂悦子さんの紙芝居講座～」



港南図書館「テアトル図書館」

・財源の確保の取組

引き続き広告事業に取り組み、ホームページのバナー広告、館内のパンフレットラックの設置などの図書館広告事業による令和2年度の歳入額は3,015千円、節減額は402千円でした。

横浜市ふるさと納税による寄付制度は平成30年度から開始し、令和2年9月現在で、155万7千5百円のご寄付をいただきました。このうち令和2年度は、101万9千円を活用し、大型絵本・紙芝居を140冊、おすすめの絵本を62冊購入しました。



磯子図書館「磯子区読書活動推進講演会
小杉啓司氏講演 -読書と根岸湾、ときどき子ども-

(2) 誰もが利用しやすい図書館サービスの充実

・市民アンケートの実施

ヨコハマeアンケート(※)を行いました。市民の読書活動や図書館の利用状況、求める図書館の機能や役割などについて伺い、1,460人から回答がありました。蔵書の充実や、身近な場所での本の貸出等を求める割合が多いこと、広報の充実が必要なサービスがあること等が分かりました。

・視覚障害者支援事業

3月にオンラインでの対面朗読を開始し、非来館でも利用可能なサービスを充実させました。

(P. 4)

・知的障害者等にわかりやすい利用案内

やさしい日本語とイラストを用いた「やさしく読める利用案内」を作成しました。ウェブサイトへ掲載し、各館で配付もしています。



・図書取次サービスと移動図書館の拡充

身近で便利な図書館サービスの充実に向けて、新規の図書取次サービス拠点の開設及び移動図書館の車両を増やすことを検討し、令和3年度予算に組み込みました。

(3) 広域相互利用の拡大

横浜市と隣接する7市のうち、広域相互利用協定未締結の町田市、逗子市と令和2年度中に協定を締結しました。これにより、隣接7市全ての広域相互利用が実現しました。(P. 4) (逗子市との相互利用は令和3年4月に開始)

(4) 人材育成の推進

「司書職人材育成計画」に基づいて研修を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、ソーシャルディスタンスの確保がしづらい図書修理講座講師研修などの研修を中止しました。広域相互利用で関係のある隣接7市との図書館職員の合同研修を新たに行うなど、職員の能

※ヨコハマeアンケート：市内在住の15歳以上の方を対象にメンバーを募集し、市政に関するアンケートにインターネットでご協力いただく。

力・知識の向上に努めました。(P. 4)

(5) 地域と連携した読書活動の推進

・読書ボランティアセミナー～ONLINE～の実施

令和3年3月20日から5月31日まで、読書ボランティアとして活動している方に向けて、オンラインセミナーを開催しました。(主催：生涯学習文化財課)

図書館は、司書による初心者向けの読み聞かせレクチャーの動画を作成し、公開しました。



読書ボランティアセミナー～ONLINE～

・図書修理や書架整理など、図書館の環境整備にもボランティアが活躍しました。(P. 36 表(8))

・図書館や地域で活動するボランティアの交流会や懇談会については、新型コロナウイルス感染症の影響で開催の見送りを余儀なくされた館が多くありました。一部の館ではオンラインや紙面により開催し、意見交換を行いました。(P. 37 表(9))

(6) これからの図書館についての検討

・「横浜市民の読書活動の推進に関する条例」施行後の平成26年度から平成30年度までの5年間の取組実績を分析しました。

・令和5年度の図書館情報システムの更新に向けて、システムの最新技術や近年の動向を事業者から収集しました。また次期システムの検討のため、図書館プロジェクトを立ち上げました。

重点項目2 子どもの読書習慣の定着への支援

横浜市立図書館では、子どもが自ら読書に親しみ、よりよく生きていくための力を養うことができるよう、児童サービスを行っています。

(1) 家庭での読書活動の推進

- ・図書館でのおはなし会や、地域施設等での出張おはなし会を実施しました。新型コロナウイルス感染症への対策に留意して実施し（P. 4）、読み聞かせボランティアの方にも活動していただきました。（開催 653 回、うちボランティア参加 339 回）（P. 35 表（5））
- ・子育て支援の講座として、保護者・市民等向け読み聞かせ・わらべうた等の講座を実施しました。（40 回、延 476 人参加）（P. 36 表（6））（7）



旭図書館「まずはここから！
絵本の読み聞かせコツのコツ」

- ・家庭での読み聞かせに向く乳幼児絵本のリスト「おひぎにだっこで楽しむ絵本」を増刷（30,000 部）し、区役所の乳幼児健診や事業等で配布しました。また、幼児向け絵本のリスト「おうちでいっしょに楽しむ絵本」を増刷（5,000 部）し、事業等で配布しました。

(2) 学校教育への協力、学校図書館充実のための支援

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため、学校司書向けの集合研修が中止となりました。児童生徒向けの図書館見学、職業体験などを学校の要望に応じて実施しました。授業支援とし

※学校向けセット貸出：学校の授業で取り上げることが多いテーマ等について、テーマごとに 20 冊から 40 冊の図書をまとめて学校に貸出する制度。

て教職員向け貸出やレファレンス、学校図書館の整備に係る相談支援などは例年どおり対応しました。

- ・学校向けセット貸出（※）では、学校からのニーズに応じて新しいテーマの図書セットを 7 セット増設するとともに、既存のセット内容を大幅に見直し、セット数を増やしました。
- ・外国につながる児童生徒の増加に応じて、中国語など、各国の母語で書かれた図書を学校向け貸出用に購入しました。令和 3 年度から国際教室設置校を中心に貸出を開始します。
- ・学校図書館に向け、おすすめの最新情報のほか、学年別おすすめ本リスト「読んでみようこんな本」や各図書館が作成した図書リストなどを提供しました。

(3) ティーンズ世代の読書活動の促進

市立図書館のティーンズ担当者がサービスについて情報交換できる仕組みを検討し、令和 3 年度から担当者会を実施します。

保土ヶ谷・泉図書館などで、ティーンズコーナーのリニューアルや移動を行いました。



保土ヶ谷図書館
ティーンズコーナーのリニューアル

(4) 地域での読書活動への支援

- ・地域で活動するボランティア向けに、読み聞かせ講座等を実施し、読書活動の担い手を育成しました。（P. 36 表（7））
- ・南図書館では、図書館のほか 4 か所の地区センターを会場に読み聞かせボランティア講座を開催し、図書館から離れた地域での読書活動を促進し

ました。

・鶴見・港南・都筑図書館では、保育所の職員など保育に関わる大人を対象にした読み聞かせの講座を実施しました。

・鶴見・保土ケ谷・山内図書館では学校などで活動するボランティアの方を対象にした、本の修理講座を開催しました。

・旭図書館ではボランティアの活動の様子を、区役所等を会場に、展示パネルで紹介しました。

・地域での読書活動の担い手を養成するため、市立図書館全体として「わらべうたと絵本の会ボランティア講座」（3回連続講座）を開催しました。乳幼児とその保護者を対象におはなし会を行うボランティア向けの講座です。

令和2年度は金沢・泉図書館を会場に、石川道子氏を講師に迎えました。



金沢図書館「わらべうたと絵本の会ボランティア講座」

(5) 児童サービス担当者連絡会の設置

・全市立図書館の児童サービス担当者がサービスについて情報交換する連絡会を設置しました。

・絵本を読んでもらっていた子どもたちが、初めて物語を読もうとするときにおすすめの図書を紹介するブックリスト「はじめてであうものがたり」を作成しました。（令和3年度から配布予定）

重点項目3 蔵書とレファレンスの充実

(1) 地域の情報拠点としての蔵書の充実

・中央図書館を中心に、学術研究レベルの専門性の高い資料の収集に努めました。また、館内閲覧

用として常置している専門書の複本化（同じ図書を市立図書館で2冊以上所蔵）をすすめ、調査・研究のために貸出を受けて図書を読みたい方、中央図書館への来館が困難な方々も利用しやすい環境整備に努めました。

・外国語を母語とする児童生徒が市内で増加している状況を受け、中国語、タガログ語、ポルトガル語、ベトナム語などの図書を収集しました。

・授業で児童生徒が使用する図書（国語の物語、伝記、理科・社会の調べ学習のための事典など）の充実を図りました。

・利用が多く、消耗が激しい子ども向けの物語や事典、紙芝居などの買い替えを重点的に行い、子どもの読書活動推進に活用しました。

・新型コロナウイルス感染症により外出自粛が要請される状況下でも読書を楽しんでいただけるよう、電子書籍サービスを3月24日に開始しました。

(P. 4)



(2) レファレンスの充実

・司書職員向けに、レファレンス事例作成研修(3回)、レファレンス専門研修（地域資料について）（eラーニングを利用・通年）、レファレンスフォローアップ研修(1回)を実施しました。また各図書館のレファレンスサービスについて情報交換を実施しました。

・市立図書館で調査回答したレファレンス事例から、「横浜」に関連するものを中心に36件を選んで編集し、市立図書館ホームページと国立国会図書館レファレンス協同データベースにて公開しました。

また、公開した事例は、TwitterなどのSNSで発信し、レファレンスサービスのPRに努めました。

・科学技術や医学・薬学関係の文献情報の検索が可能なオンラインデータベース「JDreamⅢ」を全館で導入しました。

(3) 資料の活用と情報発信

ア 中央図書館の主な取組

・図書館資料を活用した展示を47回実施しました。うち11回は、市役所各部署と連携し、市政のPRにも繋がりました。



企画展示「新市庁舎開庁記念 歴代横浜市役所をたどる」

・市民の「学び」を多角的に支援する「ライブラリースクール」では、最先端の研究成果等を学ぶ教養講座を3回、生活上の課題解決に役立つ知識を学ぶ実用講座を1回実施しました。うち3回については、ウェブ会議サービス (Zoom) を利用し、遠隔地からも参加できる方式を併用しました。



第3回ヨコハマライブラリースクール
「第2の人生で起業という選択！ 起業チャレンジセミナー」

・デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」に、横浜の劇場に関する貴重資料、横浜市立図書館が刊行した資料や横浜市が刊行した行政資料など新たに100点登録し公開しました。

また、既に公開している資料について目次情報の採録を行い、検索時のキーワードとして使えるようにしました。

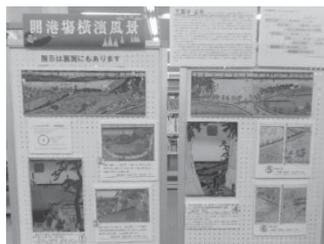


【都市横浜の記憶 追加資料より】
「横浜市図書館報 第1号 昭和5年1月」

イ 地域図書館の取組例

地域図書館でも、図書館資料を活用し、様々な取組を行いました。

図書館名	内容・実施期間
神奈川・中・緑・戸塚	パネル展示「性的少数者を知る 多様な性について考えよう」 (9月～2月)
中	パネル展示「五雲亭貞秀の描く開港場横浜風景」 (1/13～2/9)
港南	展示「震災に備え、日頃からできること」 (3/1～3/26)
保土ヶ谷	介護予防事業講演会「山口恵美子先生から学ぶわがまち保土ヶ谷体操」関連展示 (11/6～11/15)



中図書館 パネル展示
「開港場横浜風景」



緑図書館 パネル展示
「性的少数者を知る」